

英 語

▼2026年度入試 大問別出題分野など

入試区分	番号	分野	英文内容・出題内容	設問	難易度	解答数
特別奨学生入試	I	英文読解 (長文)	農場経営者が大量に生産しやすい品種だけを栽培するようになった結果、他の多くの品種が絶滅しつつあるので、それらを復活させようとする様々な取り組みがなされていること	空所補充問題(7問)・アクセント問題(5問) 下線部語句の意味(2問) 語句の並びかえ(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	16
	II	文法・語法 など	イディオム(会話特有の表現を含む)・準動詞(不定詞・動名詞・分詞)・関係代名詞・語法・不可算名詞など	適語選択形式	標準	10
	III	英文読解 (長文)	科学的な証拠を無視して、月面に降りた者は未だ皆無であるとする陰謀論を頑なに信じる人が多数存在する理由について	英文中の空所補充(5問) 下線部語句の意味(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
	IV	会話文	服装で人を判断するのはナンセンスだと考える者と、それもある程度仕方ないことだと考える者の意見の相違	英文中の空所補充(5問) 下線部語句の意味(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
一般入試 A・B方式 (前期)	I	英文読解 (長文)	近年、著名な画家による絵画の価格が驚くほど急騰するというアートバブルが起こっているが、このバブルはすぐにはじけそうになく、社会に悪影響を及ぼすこと	空所補充問題(7問)・アクセント問題(5問) 下線部語句の意味(2問) 語句の並びかえ(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	16
	II	文法・語法 など	イディオム(会話特有の表現を含む)・準動詞(動名詞・不定詞)・関係副詞・接続詞・前置詞など	適語選択形式	標準	10
	III	英文読解 (長文)	空を自由に飛ぶことは人類の古代からの夢であり、多くの人々がそれを実現するために様々な挑戦をしてきたこと	英文中の空所補充(4問) パラグラフなどの内容(2問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
	IV	会話文	新聞に載っていた感賞に面白半分で応募した女性が優勝し、二人分のニューヨーク旅行の賞品をもらったので、男友達と一緒に行くことに誘っている話	英文中の空所補充(5問) 下線部語句の意味(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
一般入試 (後期)	I	英文読解 (長文)	同じ英語圏の国でも、米国などと異なり、英国の歴史は長く、多くの伝統があるので、英国でビジネスをする場合には留意しておくべき点がいいろいろあること	空所補充問題(10問) 下線部語句の意味(2問) 語句の並びかえ(1問) 内容一致文選択(1問)	標準	14
	II	文法・語法 など	準動詞(動名詞・不定詞)・接続詞・関係代名詞・語法・仮定法・比較・態(能動・受動)・助動詞・前置詞	適語選択形式	標準	10
	III	英文読解 (長文)	記憶には、短期間しか記憶されない短期記憶と長期間記憶される長期記憶があり、どちらの記憶にするかは脳が決定することや、記憶の強化法などについて	英文中の空所補充(3問) 下線部語句の意味(2問) アクセント問題(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
	IV	会話文	就職活動中の学生が、興味のある職種はあるが、労働条件がよいくないので、留学することに気持ち悩んでいる話	英文中の空所補充(5問) ifの用法(1問) 内容一致文選択(1問)	標準	7

英 語

▼傾向

《出題形式》

全ての入試方式で 100 パーセント選択形式の客観問題の出題である。選択肢は 4 択主体だが、大問Ⅰ、Ⅲ、Ⅳの問 1 のような英文中の空所補充問題では、いずれも伝統的に選択肢が 10 択の多肢選択であることが多いのが特徴的である。

《出題内容》

全ての入試方式で、大問は 4 題で出題内容もほぼ同じである。内容は、英文読解問題が 2 題、イディオム・文法・語法などに関する問題が 1 題、会話文が 1 題となっている。近年、設問数は全体で各 40 問の構成であったが、後期日程では昨年に続き、38 題の出題となっている。

一見、読解力重視の出題のように見えるが、本学の出題の大きな特徴は、本文の内容に関する問いが非常に少ないのに対して、イディオム、文法・語法、アクセントなどの知識問題のウェイトが伝統的に高いことにある。空所補充問題は、いずれの入試方式でも全設問数の約半数を占めるほどウェイトが高く、アクセントに関する問いも例年 5 題と多い（後期日程では昨年に続き、出題数は 1 題のみ）。大問Ⅱの知識問題については準動詞（不定詞・分詞・動名詞）・イディオム・比較・仮定法・語法・疑問詞や関係詞・前置詞などに関する問いが頻出である。また、2 つの英文読解問題や会話文の中で出題される空所補充問題では文脈で解かせる問題だけでなく、知識で解かせる問題も多く、疑問詞と関係詞、前置詞と接続詞などに関する文法・語法やイディオムが伝統的によく問われる。

要するに、1) 英文中の空所補充問題、2) 文法・イディオムなどに関する問題、3) アクセントに関する問題（後期日程を除く）が出題の三本柱であり、1) では伝統的に英語の知識を使って解かせる問いが主体であったが、近年は純粋に前後の文脈だけで解かせるものも増加傾向にある。

また、内容に関する問いでは、伝統的に、会話文を含む全ての英文読解問題で内容不一致文を選ばせる問いが必出であったが、近年は段落の内容や文全体のタイトルを選ばせる問いも出題されており、多様化の傾向も見られる。

《難易度》

標準的なレベルの問題が中心である。英文中の空所補充問題では伝統的にやや難度の高い問いも散見されたが、近年は減少傾向にあり、全体的にやや易化したように思われる。

ただし、選択肢が約 10 択で、不要な選択肢も多いので、正確な知識が求められ、一筋縄ではいかないことには変わりはない。また、英文中の語句の並びかえ問題の難度は比較的高いので、この問題にはあまり時間をかけ過ぎないほうが賢明であろう。

英 語

▼対策

《英文中の空所補充問題など》

傾向の所で述べたように、本学の英文読解問題の大きな特徴は、英文の内容に関する問いは非常に少ないのに対して、英文中の空所補充問題がかなり多いことにある。空所補充問題は、大問Ⅰの英文読解問題、大問Ⅲの英文読解問題、それに大問Ⅳの会話文で出題され、合計すると16問～18問となり、全設問中の約半分弱を占めるほどである。従って、空所補充問題対策が合否の鍵を握っており、その対策は必須である。いずれの問題でも、文法知識やイディオムが解答に関係していることが多く、文法力などの知識力を充実させることが非常に重要である。特に、関係詞・疑問詞や前置詞・接続詞は非常によく出題される。これらには様々な用法があるので、要注意である。

また、近年は大問Ⅲの英文読解問題で長文化の傾向が見られるので、今まで以上に速く内容を読み取る必要がある。内容に関する問いでは伝統的に不一致文を選ばせる形式が定番であるが、本文中の該当箇所を細部までチェックしないと正答は得られない。

《アクセント問題》

近年はアクセントだけの出題で、設問数は5問と定着していたが、後期日程では昨年に続き、わずかに1題の出題であった。しかし、来年度もその傾向が続くか分からないので、後期日程でも対策は怠らないほうがよいだろう。

出題数が多いため軽視できないので、重要なアクセントの法則や、アクセント問題でよく出題される単語はチェックしておくといだろう。

《文法・語法などの問題》

文法問題は英文読解や会話文の空所補充問題の中でもよく問われるので、文法事項を総合的にまとめた問題集を一冊マスターしておくことが望まれる。英文中の空所補充問題と同様に、前置詞と接続詞の違い、疑問代名詞と疑問副詞の用法の違い、それに関係代名詞と関係副詞の用法の違いはよく問われるので、その違いなどを十分に理解しておく必要がある。また、最近では口語的な慣用表現も含めて、イディオムに関する問いが増加傾向にあることや、英文中の語句の並べかえ問題でも文法・構文・イディオムなどが鍵を握っていることが多いことから、文法・語法だけでなくイディオムを含めた知識力の強化が必須である。

▼重要ポイント

本学では出題傾向があまり変わらないことや、本学に特徴的な独特の出題内容が多いことから、数年分の過去問を徹底的に反復してやり込むと効果的であろう。そうすることで、正答を得るポイントが分かるようになるだろう。